

2月21日に開会された2月定例会が3月26日に閉会しました。本会議一般質問に立つとともに、予算特別委員として平成25年度の予算審議を行ってきました。

京都の経済は、財務事務所の法人企業景気予測調査によると、1月から3月期でマイナス16.4%になり、3期連続で悪化するなど厳しい状況が続いています。

こうした中で、府民の暮らしと営業、経済再生への鍵は賃金の引き上げと安定した雇用であり、京都のすべての中小企業を視野に入れた支援策をはじめとする地域循環型経済への転換が必要という立場で論戦を進めてきました。

日本共産党府会議員

島田 けい子

Shimada Keiko



REPORT
議会報告

医療難民や介護難民、孤独死を広げる

「社会保障改革推進法」は中止を



「高齢者がさっさと死ぬるようにしてもらいたい」という考えないと解決しない——麻生財務大臣の発言は、政府がすすめる社会保障改革の狙いと本質を明らかにしています。

医療費や介護給付の抑制のために、治療が必要な高齢者を病院から追いたて、介護福祉施設からも遠ざける。「人生の最後は自宅で」という住民

の思いを逆手にとって、在宅へと誘導する政策で、介護難民、医療難民、「漂流する高齢者」を広げていると厳しく指摘し、知事の見解を求めました。

知事は、「厳しい財政状況の下で、安定的な財源確保と持続可能な社会保障制度の確立は重要な課題であり、避けて通れない問題」と発言。

私は「持続可能な制度と言うけれど、住民の命が持続不可能になる」「これまでの政策を厳しく分析し、医療、介護の抑制政策を転換し、命を守るために、国と自治体が責任を果たすことが求められている」と厳しく指摘しました。

REPORT
議会報告

看護師増やして

安全・安心の医療を

今、府内各地の病院で、看護師不足で、病棟や訪問看護事業所が閉鎖されるなど深刻な事態が広がっています。全国で毎年新卒の看護師が5万人生まれ、6万人が復職するものの、一方で12万5000人が離職をする現状があります。

長時間過密労働や月9回以上の夜勤、夜間16時間勤務の交代制など、厳しい労働の中で、看護師の8割が「仕事を辞めたいと考えたことがある」という深刻な事態に置かれています。

命を支える医療現場で、過労死や流産などで尊い命が奪われている。看護師が生き生きと人間らしく働き続けられるよう、労働条件の抜本改善や子育てしながら働ける環境の整備を強く求めました。

理事者は「各病院を訪問し、離職防止の取り組みを進めるとともに、看護師確保や勤務環境改善に、国へ大幅な財政措置を求める。保育所整備をすすめる」と答弁しました。



高浜原発再稼働反対、大飯原発はただちに止めよ!

予算特別委員会質問

東日本大震災・福島原発事故から2年、依然として事故は収束せず、16万人の方々が避難生活を続ける中、安倍政権が「新安全基準」をもとに、原発再稼働を計画している問題で、「現在、国内で稼働中の原発は大飯の2基だけであり、電力は足りていたことも実証された。免震重要棟や防潮堤の整備も未だに行われておらず、原発の直下に活断層の可能性も高まっている。そのような



中、大飯原発は直ちに停止すること、高浜原発の再稼働は絶対認めべきでない」と府の姿勢をただしました。府は明瞭な答弁をしませんでした。そもそも、改定された「防災指針改定案」については、「判断基準である放射線量が高すぎる」「妊婦や乳幼児への配慮がない」「ヨウ素剤の事前配布の範囲が狭すぎる」などの意見が出されていること、原子力規制委員会はその声にも耳も貸さない姿勢であること、そんななか、このような国の指針を「了」とする府の姿勢は問題であると指摘しました。

い
の
ち
を
支
え
た
情
熱
で
ど
こ
に
住
ん
で
い
て
も
安
心
安
全
な
医
療
を

地域TOPICS

日米両政府が、米軍のミサイル追尾の高性能レーダー「Xバンドレーダー」を京丹後市の自衛隊基地に配備する計画を発表し、3月22日には、防衛省から京都府知事に対して説明がありました。住民は、新聞報道で知らされ、まさに「寝耳に水」です。現地調査をし住民のみなさんの声をお聞きしてきました。基地周辺にはもちろん小学校もあります。小学校のグラウンドはドクターヘリのランデブーポイントでもあります。京都にも米軍基地ができることとなります。丹後の美しい自然環境を破壊し、住民生活と平和を脅かす米軍基地、府民を戦争に引き込む恐れさえある基地は、いりません。

